

Round634 ～繁栄と発展～

大竹研究室
01812184 市之瀬 元樹

1. はじめに

武蔵浦和駅は、埼京線・武蔵野線の二線が通り、乗降者数は埼玉県内で上位に位置する。

駅周辺は、近年では地域開発やタワーマンションなどの再開発が多く行われている。ベッタウン化が進んでおり高層マンションが佇み、公園など自然に触れ合える緑化空間が無い。

人口増加に対して、街には商業施設といった集客施設が無いのが現状である。

飲食店も多く存在しているが来店者は常連や地元住民であることが多い。経済状況は横ばいもしくは衰退となっている。地域活性化、経済の循環はあまり進んでいない。

また、さいたま市では学生人口が増加していることや老朽化により学校が新築され、三つの小中学校合併が計画されている。

2. 目的 ～繁栄と発展～

本研究は、今後も増えていく若い地域住民や駅を利用する乗降者など多くの人が「Round（輪）」のように交流し地域の経済の「繁栄」と街の「発展」のために複合商業施設を計画する。

施設名は利用者の地域交流と武蔵浦和への地域愛を感じることができるように「634（武蔵）」とした。

3. 敷地概要

計画地：さいたま市南区沼影 1-8-19

用途地域：第一種商業地域

対象事業面積：5986.84 平方メートル

駅改札口から歩行者デッキによって直接アクセスが可能である敷地を計画地とする。デッキは駅周辺のタワーマンションへのアクセスにもなっている。

4. 計画概要

本計画は、駅周辺であることから街のランドマークとなる建造物になりうる。そのため街との共存が重要となってくる。

構造は円を主体とした。棟ごとに繋げることで「Round（輪）」を表現した。また、1階が6フロア、2階が3フロア、2階外部空間が4フロアとし、「634」となるように設計した。

歩行者デッキとつながる2階外部空間が広くなるように外壁を斜めに設計した。採光を取り入れると共に開放感のある建造物とした。また、浦和駅との対比を図るために自然を多く取り入れ、環境に配慮した計画とする。

施設内には、娯楽施設やアパレルショップ、飲食店、ジムを設けた。また、ジムとの併用のために風呂を設けた。

学校と共に撤去の決まっているバスケットコートを設置する。昔、計画地が家電量販店であり受容が高いため、再度配置した。2階外部空間には敷地の広さを利用した交流の場かつ地域循環の象徴となる空間広場を設ける。

小学校が隣接していることや幅広い年齢層が利用することを踏まえ、様々な用途で利用ができるように受容性が高い施設を多く取り入れた。

5. 建築概要

構造：S造

用途：第一種商業施設

建築面積：3409.45 m²

延床面積：5849.21 m²

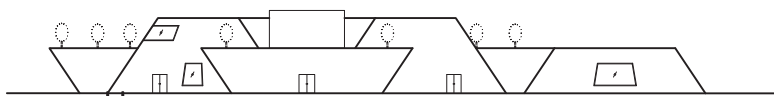
階数：2階

高さ：10,000 mm

6. 終わりに

ベッタウンだからといって住居を作り続けるだけでは、街の繁栄と発展は続かない。

地域開発が進む中で、住居増やすことだけに目を向けるべきでは無い。自然や交流の場など生活空間をより豊かにするべきである。人と共に生きていく街ができるように、人々に求められている新たな施設を提案する。



2F

南側立面図

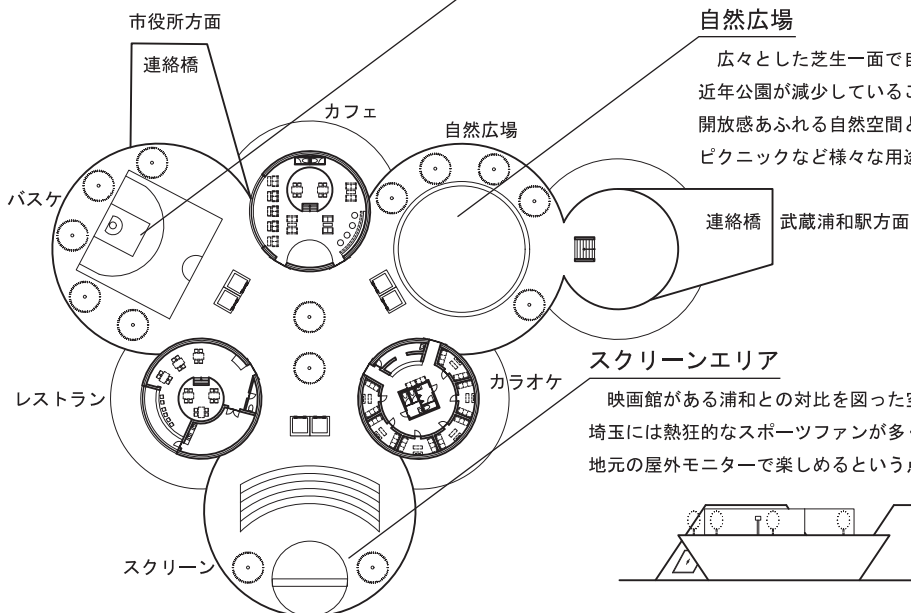
二階には飲食店を設け、窓から外部を眺められる開放的な空間とした。
また、地域競争率が低いカラオケ店を設けた。
施設：カフェ、レストラン、カラオケ

バスケエリア

小学校建て替えに伴い無くなってしまった為、再度設けた空間である。
ボールの使用が可能な空間が減少している為、専用の空間を設けた。

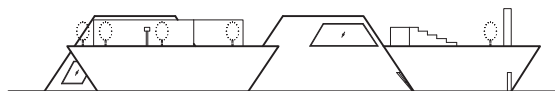
自然広場

広々とした芝生一面で自然を楽しむことが出来る空間。
近年公園が減少していることに加え、タワーマンションが佇む中で
開放感あふれる自然空間となるように計画した。
ピクニックなど様々な用途での利用が可能である。



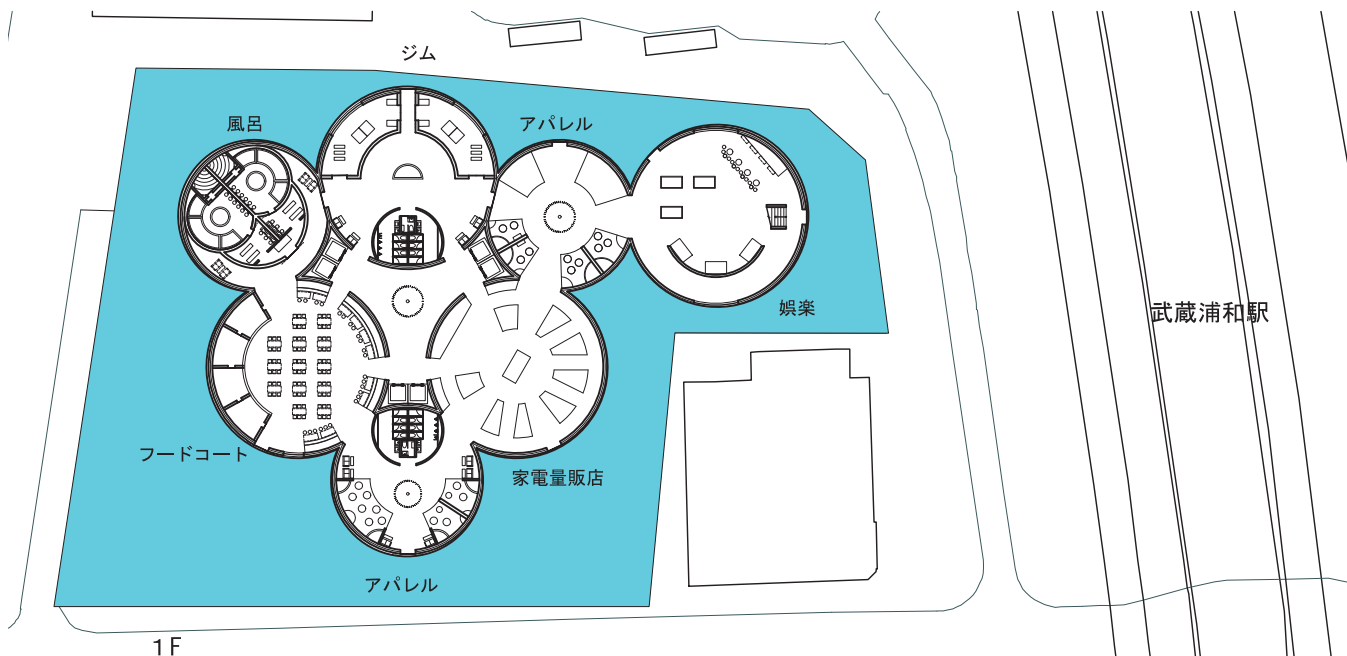
スクリーンエリア

映画館がある浦和との対比を図った空間である。
埼玉には熱狂的なスポーツファンが多く、中でもサッカーが人気である。
地元の屋外モニターで楽しめるといふ点において地域住民の交流が可能である。



西側立面図

2階・外部空間平面図



1F

一階には商業施設ならではの空間と同時に、ジムや風呂、娯楽施設など新たな要素を加えた。
また、敷地に元々存在した家電量販店を設けた。
テナント：アパレル、ジム、風呂、家電量販店、娯楽、フードコート

敷地図兼1階平面図

敷地面積：3409.45 m²

0 10 20 30m